

平成25年度 新潟市図画工作部 活動報告

部長 大矢 和子

1 研究主題 「感性を働かせて、自分の思いを表す子ども」 ～みることで、表すことがつながる・広がる表現活動～〔1年次〕

2 研究の概要

図画工作部は、昨年度、「心を動かす経験を通して、豊かに発想したり、表したりする子ども」をテーマに、「こと」とのかかわりを工夫した実践例を増やす研究を進めてきた。子どもを「こと」とかかわらせることにより、その後の表現活動に影響を与えたことを成果の一つとした。鑑賞活動では、美術館におけるギャラリートークなどで大きな成果を挙げている。しかし、普通の授業の中では、製作後に「みる」活動を取り入れた鑑賞場面を設定する程度であったために、子どもの「みる力」を十分に身に付けさせてこなかった。そこで、今年度からは、研究テーマを「みること」に特化した内容に改め、「みる力」を育む研究を進めることにした。

3 研究の実際

研究テーマの「感性を働かせて」とは、現行学習指導要領図画工作編に基づき、『児童の感覚や感じ方、表現の思いなど(p.7)』を十分に働かせること」ととらえる。本研究では、研究テーマの目指す子どもにするために、研究テーマの副題「みることで、表すことがつながる・広がる表現活動」の授業を展開する。このような授業を展開するために、各授業研究では、製作前や製作中において、「みる場の設定」と「みる視点の提示」の二つに着目した働き掛けを行った。

(1) 1学年「とびだせとびだせ」 【東山の下小学校 高橋 久美子 教諭】

本題材の目標は、息を吹き込むと膨らむポリ袋を用いて、その膨らむ動きの面白さから、自分の思いに合う動きをしながら袋が飛び出すおもちゃをつくらせることであった。授業者は、袋の飛び出し方に着目させるために、「みる視点の提示」として、「シュッシュッ」「ふわふわ」などの繰り返しの言葉を使わせた。その結果、子どもは、つくりたいおもちゃのイメージを明確にして、つくり進めることができた。「みる場の設定」としては、製作中、面白い動きをして膨らませている子どもを鑑賞させる場を設定した。

(2) 1学年「ならべてつんで」 【小須戸小学校 目黒 陽子 教諭】

本題材は、身近にある材料を思いのまま並べたり、積んだりして、全身を使って取り組む活動であった。「みる場の設定」では、導入時に、前時に行った活動の様子を示す3枚の写真を提示し、気付いたことを発表させた。子どもは、バランスや色などに注目していた。本時の活動でも、色にこだわる子どもが見られたので、「みる場の設定」の一定の効果が見られた。「みる視点の設定」では、気に入った作品を発表させた。そのことにより、作品づくりが停滞していた子どもにとっては、新たな発想や構想をもつ視点を獲得する機会になった。

(3) 3学年「住んでみたいな、こんな町」 【豊照小学校 齋藤 芳子 教諭】

本題材は、木片を用いて、友達と協力しながらみんなで住んでみたい「ぼくらの町」をつくる活動であった。授業者は、前時までに各グループでつくり進めた町の良さを発表し合う「みる場の設定」を行った。子どもは、お互いの町の良さを知ることによって「もし、僕たちの町を友達の町とつなげたら、子どもがいっぱいやってくる町に変わるかもしれない」などと、新たな発想や構想を膨らませていた。「みる視点の提示」では、気球に見立てたビデオカメラで町の上空や低空から撮影し、気付いたことを発表させた。

(4) 3学年「発想を広げて 版画で表そう～世界一の〇〇な生き物～」 【曾根小学校 鈴木 枝美子 教諭】

本題材は、教科書に示された参考作品を基に、つくりたい版画の構図を考え、版を配置し、模様や飾り、部品などの付け足し版をつくる活動であった。「みる視点の提示」では、教科書の作品を鑑賞させ、「どのようにつくられているのか」「どんな感じがするのか」という二つの視点を提示し、鑑賞させた。子どもは、二つの視点を用いて、複数の作品を見比べたり、じっくりと鑑賞したりする姿が見られた。「みる場の設定」では、自分の表現と友達の表現との違いや良さに気付かせるために、「よいとこ発見ツアー」を行った。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 「みる視点の提示」では、新たな視点の良さに気付く子どもの姿が見られた。新たな視点の良さに気付いた子どもは、その後も、その視点を使って作品を見直したり、新たな発想や構想を働かせたりしていた。この姿のように、新たな発想や構想の手掛かりになる視点に気付かせたことは、その後の表現活動に影響をもたらしたことを示している。
- ② 「みる場の設定」では、製作前や製作中において、身近な作品や友達の作品の形や色などの造形的な特徴や表現の意図、表し方の工夫などをお互いに共有したことで、その後の活動の見通しをもたせることにつながった。また、鑑賞の場面を授業のはじめに行った場合には、子どものイメージをもたせることや、こんなふうになってほしいという教師の願いに気付かせることができた。

(2) 課題

- ① 「みる場の設定」を考える際には、子どもの困り感や悩みなど、鑑賞前の状態を十分に把握すると共に、どの場面（導入・展開・まとめ）で鑑賞させたらよいのかを考える必要がある。
- ② 「みる視点の提示」では、どのような視点を提示することが、子どもの発想や構想を広げるのかという点を、今後の授業実践で明らかにしていく。

